

## 男性とアルコール

Marja Holmila

ここ20年間、デンマークとフィンランドにおいて特にアルコール消費量が増加している。他の国においては、アルコール消費量はより安定しており、スウェーデンの消費量は実際に1970年の一人当たり5.8㍑から、1990年の一人当たり5.5㍑まで下がっている。

記録を保存し続けている全ての国においては、男性の飲酒は女性よりも多い。性別間の違いはまた大きい。1979年の消費量をみると、男性の割合はフィンランドでは76%、スウェーデンでは74%、ノルウェーでは71%、アイスランドでは76%であった。その差は時が経つにつれ、わずかに縮まっているとはいえ、男性は女性の2倍飲む。アルコール消費量が高い国よりも、アルコール消費量が一般的に低い国においては、男性の割合が多い。

アルコールを慎むという観点からの男女間の差異は、EUの平均よりも2つのスカンジナビア諸国（デンマークとフィンランド）において、わずかに低かった。おそらく飲酒は平等のシンボルになり、その結果として、ここ10年間飲酒をしない女性の割合は落ち込んでいる。しかし、飲酒をしない女性は、まだ男性の二倍いる。

このほとんど普遍的ともいうような違いがあるのはなぜなのかについて、私たちは理解しようとしている。多分それは、どういうわけか女性の飲酒よりも男性の飲酒の方がより受け入れられているからである。あるいは、いくつかの理由のために、男性は女性よりも飲酒したいという強い欲求と必要性を持っているからである。もし、なぜ酒を飲むかを尋ねたとしても、少なくともフィンランド以外では性別間による驚くべき違いは見つからないであろう。現在男女ともに、気持ちよくなるために、リラックスするために、緊張をほぐしたり、お祭り気分になったり、会話を促し他の人と親しくなるために飲酒をしている。しかしながら、飲酒場面における男性と女性の行動についての人類学的研究は、男女間に存在する大きな違いについて豊富なデータを提示してきた。女性には、飲酒を妨げる多くの要因がある。これらの要因は、実際的な面と文化的、規範的な両方にある。女性は飲酒行動において自制心をより強く持ち、女性の不適当な行動は、より汚名をきせられる。女性は異なる社会状況においても、他者に対してより多くの責任が課せられ、そして女性は日常生活により多く組み込まれている。

これらの全ては次のような意味を持っている。というのは、同じ場面においても男性は自己コントロールの必要性はなく、同様にお酒を飲むことで汚名をきせられることもない。そして、男性は他の人（例えば子ども）の世話や責任を女性へ任せ、自分は自由に飲むことができる。近代化と男女間の機会均等の発展は、こうした事態を変化させてこなかった（Holmila 1992）。

### 要注意の飲酒者(Worried drinker)

しかしながら男性は、飲酒する事について心配をしている。フィンランドの研究では、実際に男性は飲酒について女性よりもより多くの心配をしていることを示した（Simpura 1995,157）。飲酒について話すことで、この問題に影響を与えることのできる人は、親しい家族のメンバーや友人たちであることが多い。

他の国におけるさまざまな研究は、アルコール消費によって引き起こされる害が、個人レベル、社会レベル両面でアルコール摂取量と関係していることを明らかに示している。その害は、多くの異なった要素が組み合わさっている。長期間に亘る過剰のアルコール消費は、多くの害をもたらす。他の飲酒形態もまた、その人自身やその人の最も親しい人々に悪い結果をもたらす。

私の研究結果によれば、フィンランドにおける男性の22%、女性の5%がリスクドリンカーの範疇に入った。リスクの高い飲み方は、若年層、ひとり暮らし、独身の人々の間に共通して見られた。男女間のアルコール消費量の違いは、かなりの男性が、あらゆるアルコール関連疾患に罹患しているという結果をもたらした。

### 家族におけるアルコール問題

プライベートな領域、すなわち家族内のジェンダーに特有なアルコールをめぐる文化的な特徴は何だろうか？フィンランド男性の半数が、お酒を飲みすぎることで妻と口喧嘩をする。そして、そのケースの40%において、妻たちはそれを制限しようと努力してきた。

家庭において飲酒を制限しようとする妻たちの努力は、未だ夫たちを受け入れると同時に服従させられているというような結婚生活の中の他の矛盾と相関関係にある。男性の深刻なアルコール問題が無い場合でも、管理役割は女性たちの文化規範である。

貧しい国において、女性よりも多くお酒を飲むことは男性の特権である。アフリカ諸国においては、40歳以上の男性は彼の妻たちが畑で働いている間、日陰に座ってビールを飲んでいる。人間は裕福になって、沢山のアルコールを飲めるようになると、この特権は、

多分男性にとって問題をもたらすことになるだろう。というのは、男性は女性よりも多くアルコールを飲むので、アルコール関連疾患により多く罹患するからである。

それにもかかわらず、男性の飲酒や飲みすぎに対する態度は、より寛大で、女性と比べると是認されている。さらに、女性がより積極的になって社会的責任を負うようになったにもかかわらず、男性は相変わらずアルコール問題に対して積極的ではない。私は、アルコールによって苦しむ友人に対して、男性が一致して容認しているのを不思議に思う。また、アルコールを飲む人と親密な関係にある特に子どもなどが、最も多く被害を受けている。アルコール中毒症の息子は、とてもひどいめに遭うことがある。そして彼らは、他の少年よりもリスクドリンカーになる危険性が大きい。これは男性にとって重要な問題ではないだろうか？

(三浦麻矢)